

国際海運 GHG ゼロエミッションプロジェクト

第3回会合(令和3年3月23日開催) 議事要旨

(1)GHG 排出削減・ゼロ排出に向けた取組の動向

- 事務局から、GHG 削減対策に係る国際動向(資料 20-3-1-1)、EEDI フェーズ4の検討状況(資料 20-3-1-2)及びグリーンイノベーション基金事業の今後の進め方(資料 20-3-1-3)についてそれぞれ説明。
- 委員からの主な意見・コメントは以下の通り。
 - ✓ 新造船・既存船それぞれへの燃費規制によるアプローチに加え、国際的な基金制度や経済的手法により、海運・造船市場において低・脱炭素技術の開発・普及が迅速に進むための環境整備が必要。
 - ✓ 自動車分野における脱炭素化の動向など、積極的に他産業の動向についても注視した上で、海事分野としての戦略的な検討が必要。
 - ✓ 経済的手法において、他セクターからの排出権購入による(名目上の)排出削減を図る「オフセット」は、可能性としては否定し得ないが、グローバルな制度構築は困難であるほか、中長期的にはオフセットに依存し続けるべきでない。

(2) 来年度以降の取組について

- 事務局から、本プロジェクトの 2020 年度の活動報告(資料 20-3-2-1)及び 2021 年度の活動素案(資料 20-3-1-2)についてそれぞれ説明。
- 委員からの主な意見・コメントは以下の通り。
 - ✓ 菅総理大臣が 2050 年カーボンニュートラルを発信されてから、脱炭素化への動きは新たなフェーズに移行。一般的な関心も高まっている。海運分野が脱炭素化に向けていつ何を取り組んでいるのか、一般の人々に見える化すべき。
 - ✓ 規制的手法+経済的手法といった全体の政策パッケージの議論も重要であるが、加えて、(実プロジェクトと政策論が互いにフィードバックできるよう)「日本として一隻目のゼロエミッション船をいつ実現するか」といった個別プロジェクトの議論も必要。
- 以上を踏まえ、今年度の本事業の総括とともに、来年度以降の基本的な取組方針を確認した。

以上